

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 3 月 31 日

事業所名 オールケア児童デイみどり

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|--|--|----|-------------------|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | メンバーによりマットフロアを拡大・縮小している | マットに下りる人、バギーに乗る人と時間差で使用するようになっている。入口スペースやマットの使い方など工夫している。 |
| | 2 職員の配置数は適切である | ○ | | 他部署から協力を依頼しあっている | レクリエーションをナースがカバーしたり、医ケアの準備・片付け等をナース以外のスタッフも行うようになっている。 |
| | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | ○ | | | 歩行される方のスペースが取りにくいので歩行場所を空けてスタッフが付き添って移動するようになっている。 |
| 業務改善 | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している | ○ | | 部署の会議を2回実施し共有時間を確保 | 各会議で業務改善の目標、振り返り、反省、提案を行っている。 |
| | 5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | | ご家族様のアンケートやモニタリング等を共有できている。保護者の以降はすぐに伝えて頂き、それに向けて改善を試みている。 |
| | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | ホームページにて公表している。 | スタッフにも周知していく。 |
| | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | ○ | | 他部署の管理者と素直な意見交換は行っている | オールケアグループ内で結果等を共有している。 |
| 適切な支援の提供 | 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 本部の研修に参加・リモートでも参加している | オールケア寝屋川の研修を会議前後に行われている。 |
| | 9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | 日々の申し送りを会話の中で共有することが多い | ニーズや課題を受けて日々切磋琢磨している。 |
| | 10 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | アセスメントシートの更新を行っている | 2つの放課後等デイサービスの間で共通の書式を採用し、誰が見てもわかるようにする。 |
| | 11 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | イベント担当を中心に発信・企画を行っている | レクリエーションや行事の計画、反省を毎回行っている。 |
| | 12 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | ○ | | スタッフ(企画側)が楽しいことを実践する | その季節ごとにイベントなどはできているが日中活動は難しいときがある。新しいものを取り入れるようにいろいろな情報やアイデア作品等を取り入れている。 |
| | 13 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 個々の長所を活かし業務を遂行している | メンバー、人数、時間帯等を考慮して無理なく楽しめられるようにしている。 |
| | 14 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | 個別活動と始めの会などメリハリをつけている | 子どもの姿勢、配置、好み等も考慮して活動を組み立て、個別ではじっくり丁寧に集団ではみんなの和をもつての楽しみを作るようにしている。 |
| | 15 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | 朝礼にて業務連絡とスケジュール確認を行う時間を確保 | 朝、特に伝える内容、注意点、流れ等を伝えあうようになっている。 |
| | 16 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | 終礼の実施 | 終了後、打合せ、振り返りをしたりその場になかったスタッフは記録を見て確認を行う。 |
| 17 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | リアルタイムでの記録を心掛けている | 得た情報に関しては日報に集約し一元化するようにしている。 | |
| 18 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | ○ | | 相談支援員との連携をとっている | モニタリングは項目分けをして、知りえた情報をそのまま共有するようにしている。日々の変化や気づきに関しては申し送りの際に尋ねて確認をとるようにしている。 | |
| 19 | | ○ | | 個々の状態も考慮したうえで組み合わせ、計画を立てて支援を行っている。 | スタッフとも共有し合いながら、バランスを考え総則の内容に沿った支援を行う。 |

| | | | | | | |
|----------------------|----|---|---|--|------------------------------|--|
| 関係機関 や保護者との 連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | 管理者・看護師の参画 | 管理者のほかにも、現場の職員としても参加できると尚意識が高まることが期待される。 |
| | 21 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている | ○ | | 関係機関を意識している | ご家族様が予定等についてお知らせいただき、定期的に学校ホームページの行事予定も確認している。メールチェックも怠ることなく、学校等からの連絡を見逃さない習慣が出来ている。 |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | ○ | | グループ会社とも連携をとっている | 現状の確認、指示書の共通認識等、家族様・病院・社会資源で電話・FAXなど都度情報を交換している。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | 就学されてしばらく経っている方が多い | 就学後の変化・成長が著しく家族様・現相談支援員のやりとりが多い。就学の切り替えのタイミングがあれば情報交換を執り行いたい。 |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | ○ | | 移行に向けての配慮を保護者と調整する | スムーズな移行を叶えるために、生活介護の場所・職員との相互理解を深める。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | 児童発達センターとのやりとりは少ない。 | 研修で習得したことは、スタッフにも周知していく。 |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | | 秋祭り、一般参加のイベントを設ける | 地域の小学校とのコミュニケーションはご家族様も望まれている。地域に根差した事業所として地域連携を考える。 |
| | 27 | （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している | ○ | | 自立支援協議会への参加 | 管理者が協議会に参加している。業務が優先されるときがあり毎回参加できているわけではない。 |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | 日々の申し送り | 少しでもクエスチョンがあれば、電話で相談したり、様子を動画や写真に撮って確認しあったりしている。 |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ○ | | 必要時に行っている。 | 保護者様の対応力という意味で、ニーズを開き出すことができている。コミュニケーション不足にならないよう、モニタリング等の時間を活用し潜在的ニーズを探る。 |
| 保護者への 説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | 契約時に重要事項説明書等により説明を行っている。 | 何かの変更があれば、手紙での伝達や管理者が直接伺うといった体制をとっている。 |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | モニタリングや送迎時に対応している。 | 医療的ケアに関して看護師や管理者が話し合いの機会を設け、互いの価値観を尊重し適切な手法がとれるよう努める。 |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | 秋祭りや参観日の実施を考えていた | 懇談や参観等のイベント(機会)を設ける。広報も活用しコミュニケーションを多くとりやすい仕組みを考える。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | 苦情報告を周知している | 即時対応を心掛けているが、未然に防ぐこともできる。職員内で対応や振り返りを行うようにしている。 |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | 行事連絡は行っている | 会報はないが、個別にLINEなどでその時の様子は伝えている。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | ○ | | 配慮している。 | |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | 配慮している。 | 言葉にならない思いなどを想像し配慮するような言葉がけを行っている。 |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | | コロナ禍前は行事を行い招待状やチラシの配布を行っていた。 | 地域連携についてはプロジェクトとして継続して取り組みたい。 |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|--|------------------------------|---|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | 報告書の作成を行っている | 避難訓練等の情報を整理し、ひとつのマニュアルとする。また出来ているものについては更新を意識する。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | 安全管理委員会が主となり災害を想定した訓練を行っている。 | 地域連携を含めると尚良いと考える。 |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | 全体研修を行っている | 研修はしていないが、危険なことなどあればその都度みんなで共有できている。 |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | サービス計画と共に振り返るようにしている | 何が身体拘束に当たるのか、また成長に合わせて出来るが増えるのではないかなど、本児に合わせた対応を行っていききたい。 |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | | 指示書の管理を看護師を中心にしている | ご家族様から体調に合わせた申し送りを受け、職員内でも同じ認識と行動がとれるように努めている。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | 委員を設け共有している | 安全管理委員会の実施。 |

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公

公表： 2023年 3月 31日

事業所名 オールケア児童デイみどり 保護者等数（児童数） 13人 回収数 7人 割合 53.8%

| | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | ご意見 | ご意見を踏まえた 対応 |
|-------------------|---|----|---------------|-----|-------|------------------------------------|------------------------------------|
| 環境・ 体制整備 | 1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 6 | 1 | 0 | 0 | | バギーと休憩・訓練スペースを調整し、過ごし方を変えている。 |
| | 2 職員の配置数や専門性は適切であるか | 7 | 0 | 0 | 0 | | 他部署の職員とも情報共有を図っている。 |
| | 3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | 段差等なく平面となっている。 |
| 適切な 支援の 提供 | 4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | モニタリングのほかに看護師・ヘルパー目線での情報も集め検討している。 |
| | 5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | 可動域やストレングスに注視し活動の幅を広げられるよう努めている。 |
| | 6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | 2 | 2 | 3 | | | 地域交流の場や接点をもてるよう検討したい。 |
| 保護者 への 説明等 | 7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 7 | 0 | 0 | 0 | | 日々の申し送りをさせていただいている。 |
| | 8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | 試行錯誤や継続についても相談を行っていききたい。 |
| | 9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | 実際のケアを互いに直接見る機会を設けたい。 |
| | 10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 1 | 4 | 2 | 0 | コロナ感染の為今は中々開催しにくいと思いますが又開催してほしいです。 | コミュニケーションの機会の確保を行っていききたい。 |
| | 11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 6 | 1 | 0 | 0 | | 迅速な対応を心掛ける。 |
| | 12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | 配慮を継続する。 |
| | 13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか | 6 | 1 | 0 | 0 | もう少し色々発信してほしいです。 | 行事等の告知や情報の発信を行っていく。 |
| 14 個人情報に十分注意しているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | 配慮している。 | |
| 非常時 等の 対応 | 15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | より細かい配慮とわかりやすい説明を行う。 |
| | 16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 7 | 0 | 0 | 0 | | より実際にイメージした訓練を行っていききたい。 |
| 満足 度 | 17 子どもは通所を楽しみにしているか | 7 | 0 | 0 | 0 | いつも楽しく通っています。ありがとうございます。 | 年齢や背景に合わせた配慮を今後も強化していききたい。 |
| | 18 事業所の支援に満足しているか | 7 | 0 | 0 | 0 | 送迎時間などいろいろ配慮していただき助かってます。 | 成長と課題を見つめ、日々更新できるよう努める。 |

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。